

2021年度

12月6日

〈高校〉国際生 Honors 選考

日本語作文

国際生
①
高校

国際生
①
高校

注意

- 1 試験開始の合図があるまで、この冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答の下書きが必要なときは、この問題用紙の余白を利用しなさい。
- 3 解答用紙に、受験番号と氏名を書きなさい。
- 4 解答はすべて解答用紙に書きなさい。
- 5 試験終了後、問題用紙と解答用紙の両方を提出しなさい。
- 6 句読点、符号等は字数に数えなさい。
- 7 本文中には、問題作成のために省略や表現を変えたところがあります。

かえつ有明高等学校

二〇二一年度 〈高等学校〉国際生入学試験【オナーズ選考】 日本語作文

二〇二〇年十二月六日実施

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(設問に字数指定がある場合は、句読点や符号も一字と数えます)

私たちは誰でもある特定の文化の中で生まれて育ちますので、ほかの文化と出会ったときには、本当に違うなあと思し
らされます。そのときの感覚はさまざまな文化があつていいなというようなものだけではなくて、^①違和感も含まれている
かと思えます。人によって、^②カンダイな方もいらっしゃると思いますが、それは多少反発の気持ちもわくような違和感であ
ると思えます。そして実はそのようにして異なる文化に出会うまでは自分の文化にも気がつかないということがあります。

大分前のことですが、『an・an』という雑誌の正月号にお、^③雑煮の特集が出ておりました。高知とか京都とか福島
とか、さまざまな地方のお雑煮が出ていました。そしてその次の号あたりに「読者からの便り」というのがあつて、
「この前の雑煮特集号を見ました」と書いてありました。

N県出身の友達のア子に、「あなたのところのお雑煮はなに？」と聞きました。そうするとA子は
「いえ、私のところは、^④フツウのお雑煮」「だからどうなの？」「ごくふつうの。あのウサギの肉が入っているやつ」
「……」

そういうようなことは、たとえば違う地方の人が結婚したりすると起きるわけです。片方はたとえばすきやきを醤油と砂糖
だけで味付けをする。もう一方は下地を使って比較的スープ状にもつていく。「スープ状」という言い方に、すでに私の偏
見があらわれておりますが、私は醤油と砂糖のほうであります。そうするとお互いに一つの鍋で違ったすきやきをつくらう
とし合い、一向にすきやきができない。

異なる文化を知る、たとえばフランス文学を学ぶとか、またはバリ島の民族舞踊を、^⑤コウサツするとか、そういった、知
る形での文化の理解というのは、私たちの努力に正比例してどんどん増すだろうと思えます。そのことは非常に、^⑥奨励され
て行われているわけです。少し単純化しますと、知るといふのはいわば語学の習得のような形で、それは努力でなんとか
できる。それは反省的に、それから意識的にとらえられる異なる文化だろうと思えます。しかしそういう形でなくて、生きる
という形の文化の理解のしかたはどうであろうか。たとえば私たちは生まれたときから、その生き方を親から教わりなが
ら、また周りの人から教わりながら、日本文化というものを生きております。それはポルトガル語やロシア語を学校で学ぶ
というような学び方ではない。文法を学び、単語を覚え、それに、^⑦基づいて文をつくる、というのではなくて、周りの人
の細かなやりとりの中で、失敗したらその次に直していくというやり方です。それは「学んでいる」という感じでは
なくて、むしろ「生きている」という言葉のほうに近づいたりするようなやり方で習得していくわけです。(中略)

ポルトガル語を知るといふような形での文化の理解というのではなくて、それを生きるというの、いわばそこにある価
値観を信じ、文化が持つている、^⑧枠組を無意識の中で自分のものにしていくということ。きょうは法学の先生がいらっしや
います。われわれは六法全書を読みながら暮らしているわけではありませんが、大体こういうことをしなければ法律に
^⑨ふれずに生きていくことができるというのはわかっています。そういう生きる形で法律を学び、知る形で法律を学ぶ。もち
ろん実際に法律を学ぶということも指しているものではありません。それは文化の中にある、^⑩ヤクソク事という形でいくつ
かの価値とかいくつかの特殊な事例を教えられて、それを自分の中で組み合わせて、大体これでよからうということ
で生きています。そして失敗すると周りの人から細かな注意をされて、修正しながらその文化を理解していく。それは無意識的で、あ
まり反省してとらえ返したりしない。そうやって反省的・意識的ではなくて、無意識的に(いちいち再びとらえ返さないと
いう意味で)生きて身につけた文化というのは、しばしばもうそれしかないと思えるような文化になる。A子さんという人
は、お雑煮にはウサギの肉を入れる、それ以外ありえないと思つたわけですが、こういうことはよく起きることあります。

(『異文化への理解』所収 船曳建夫「文化と理解」より)

問一 線①～⑩のカタカナは漢字に直し、漢字については読みかたをひらがなで答えなさい。

問二 私の偏見があらわれております。 について説明したものととして、最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「私」の日本の「すきやき」に対する、個人的なものの見方があらわれている。

イ 「私」自身が気づかないうちに持っている「すきやき」のイメージが、反映されている。

ウ 「醤油と砂糖のすきやきの方がよい」という「私」の考えが、はっきりと表現されている。

エ 地方ごとに全く異なる「すきやき」は、どれも「すきやき」だと考える「私」の思いがほのめかされている。

問三 右の文章をふまえた上で、あなたはどのようなことを考えましたか。これまであなたが見たり聞いたりしたことを紹
介しながら、四百字以内で書きなさい。